

研修報告書 No.23

研修先： 嶺北中央病院

この度、令和6年2月の1か月間高知県の嶺北中央病院にて地域医療研修を行いましたので報告します。

私は、出身は神奈川県ですが、徳島大学出身ということもあり、研修先に同じ四国の高知県を選びました。私は今回の研修で、市中病院における common disease などの一般的な診療を学ぶことと、実際に高齢化、過疎化が進んでいる地域における実際の生活についても感じることができればと考えていました。この報告書では、研修内容、県外の研修医から見た高知の地域医療の状況、今回の臨床研修で得たものの3つについて述べさせていただきます。

研修の内容としては、内科の入院患者さんの診療、訪問診療、内科一般外来診療、救急対応、外来見学など幅広く参加しました。入院診療では上級医についていただきながら、幅広い疾患の患者さんを診させていただきました。私が普段研修をしている大学病院では、いわゆる common disease の患者さんを診療する機会があまり多くないこともあり、一人一人について、どうしてこの薬剤を使い、どのような検査をどんなタイミング、頻度で行うのか、何を改善の指標にして、何を退院の目安にするのかなど、社会背景も含めて考える必要があり、大変勉強になりました。

また、一般内科外来を担当しましたが、こちらも大学病院は研修医が行うことはあまりないため、初めは不安もありましたが、手取り足取り教えてもらいながら行うことができました。診療を行っている中、輸血は高知市内から取り寄せないといけないことや、血液培養がなかなか出ないこと、救急外来で画像を撮影しても、放射線科医の先生が平日は不在なため、即時に読影を行えないことなど、医療資源としても制約があり普段の大学病院が恵まれた環境にあることを感じました。

県外の研修医から見た高知の地域医療の状況として、まず感じたのが、患者さんと地域社会の少子高齢化です。初日病院に行った際に、病棟に入院する患者さんの年齢層の高さを感じてしまいました。イメージとしては90代の方もかなり多く、70代の方はむしろ若く感じるというほどでした。調べてみると、実際に本山町の高齢化率は47%とのことでした。また、婦人科外来に同席した際の先生のお話では、産科として分娩可能施設は県内に10施設しかなく、出生数も年間3,300人ほどとのことでした。患者さんとのお話の中では、やはり少子化や高齢化の問題への意識の高さを感じました。ほかにも嶺北地域の歴史や、近隣の福祉施設の職員の不足などの問題を話していただき、この地域における医療の立ち位置に関しても感じ取ることができました。

今回の研修を通じて、common といわれるような疾患や生活習慣病についてかかわること

が多く勉強とても勉強になりました。また、大学病院と違い小さな規模の病院だったので、医療や医師の仕事が町の生活の一部であることを感じられてよかったです。そして、入院する患者さんひとりひとりの診療についていくのが必死の研修医としての目線ですが、全国で今後起こってくる高齢化などの現象を肌で感じ取ることができて、医師としても、人としても少し視野を広げることができました。休日には、高知や徳島など四国の様々なところで食事をしたり友人など、さまざまな人々と会い、再度居心地の良さを感じることができました。とても充実した1か月を送らせていただきました。関わってくださった方々や患者さん、この場を借りてお礼申し上げます。